

植物防疫所 病害虫情報

No.118

2019・7・15

G20 首席農業研究者会議（MACS）の開催について

農林水産省 農林水産技術会議事務局 国際研究官室

■はじめに

農林水産省は、2019年4月24日から26日に、G20 首席農業研究者会議（MACS：Meeting of Agricultural Chief Scientists）を我が国で初めて開催した。

G20MACS は、G20 各国及び国際研究機関の首席農業研究者及び農業研究行政官が参集し、世界における研究の優先事項を協議するとともに、各国及び国際研究機関の連携を強化することを目的とした会合である。2012 年から毎年 G20 議長国で開催しており、2019 年で第 8 回目となった。

今次会合に参加が得られた国及び機関は、下表のとおりである。

G20 メンバー	アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、韓国、ロシア連邦、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、英国、米国、欧州連合（EU）
招待国	オランダ、スペイン
国際機関	国際農業・バイオ科学センター（CABI） 国際農業研究協議グループ（CGIAR）システム管理事務局 国際熱帯農業センター（CIAT） 国際とうもろこし・小麦改良センター（CIMMYT） 国際食料政策研究所（IFPRI） 国連食糧農業機関（FAO） 国際植物防疫条約（IPPC）事務局 農業分野の温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA） 世界銀行

表 参加国及び機関

また、我が国からは農林水産省農林水産技術会議事務局、農業・食品産業技術総合研究機構及び国際農林水産業研究センターの代表者が出席した。

4月24日は、東日本大震災で被災した宮城県沿岸部を訪問し、農林水産省プロジェクト研究等を活用して新しい技術を導入し、農業生産の復興・創生を進めてきた事例等の視察を行った。25日及び26日は、東京において本会合を行った。本会合では、我が国は議長として、「越境性植物病害虫」及び「気候変動対応技術導入のための社会実験的アプローチ」に関する研究の国際連携の推進を主要議題として取り上げた。

■主要議題の設定とその準備

農林水産省は、我が国が G20MACS の議長を務め、主要議題を設定することを見据えて、昨秋から、国内の専門家から構成される「植物病害虫の世界的拡散と対応策の研究に関する検討会」、「気候変動の下での持続可能な農業推進に関する検討会」を設置し、最新の知見や情報等を得るとともに、これら課題への貢献に繋がるような議論の方向性について検討し、議論のたたき台となるコンセプトペーパーを取りまとめた。そして、G20MACS 開催に向けた準備の過程で、このコンセプトペーパーの概要を G20 メンバーに提示しながら、G20MACS の主要議題の設定、コミュニケ（合意文書）案の調整を行った。

コンセプトペーパーでは、越境性植物病害虫については、近年、世界における持続的な食料生産、環境保全に対する脅威となっており、その病害虫の被害を最小限にとどめるためには、発生地域において早期に病害虫を発見し、そのまん延や新たな地域への侵入の防止、防除を迅

速に進めることが必要であるとした。その上で、G20 メンバーは、病害虫の診断技術や防除技術等を有しているため、これら諸国の研究機関等が、開発途上国も含めた国際社会と協力して対応をとっていくことが重要であり、2020 年の国際植物防疫年も見据え、G20MACS では、本分野における国際的な研究連携を推進するための取組（2019 年の関連ワークショップの日本での開催、ネットワークの構築、研究協力の強化、国際機関との連携強化等）を議論することを我が国から提案した。

■ G20MACS の結果概要

1 越境性植物病害虫について

今次 G20MACS では、越境性植物病害虫が、食料安全保障と環境に対する深刻な脅威となっていることが認識され、植物病害虫の発生や管理に関する G20 メンバー等の経験や最新情報を共有し、効果的な対策のための研究連携を促進するため、本年中に国際ワークショップを開催することを我が国から提案し、支持された。

また、病害虫診断の研究所、研究機関及び大学のネットワークの構築及びネットワーク内外の関係者の自発的交流が奨励され、関心を持つ G20 メンバーが共同研究等の研究協力を促進できることが確認された。そして、2020 年を国際植物防疫年とする国連の決議の採択を歓迎するとともに、G20 農業大臣に対し、越境性病害虫の研究協力を促進するため、これらの活動を支持することを提言した。

2 気候変動対応技術導入のための社会実験的アプローチについて

気候変動対応技術については、革新的な農業技術の開発と実践により持続可能な食料生産を支え、農業分野の温室効果ガスを削減することができるという見解が共有された。気候変動対応技術の開発と普及に関する経験と最新情報を共有し、研究連携を促進するため、本年中に国際ワークショップを開催することを我が国から提案し、支持された。

また、関心を持つ G20 メンバーが、気候変動対応技術の導入に関心を有する国との間での研究連携を強化できること、このような連携には、社会実験的アプローチを用いた現場での実証事業の実施が含まれ得ることも確認された。

そして、G20 農業大臣に対し、これらの研究連携を強化する自発的な活動を支持することを提言した。

■ おわりに

今次 G20MACS で合意された越境性病害虫及び気候変動対応技術に関する国際ワークショップについては、本年後半、我が国においてそれぞれ開催予定である。

これら G20MACS のフォローアップ活動が、今後我が国における越境性植物病害虫等に関する国際的な研究連携を促進する一助となれば幸いである。

参考資料：

- (1) 「植物病害虫の世界的拡散と対応策の研究に関する検討会」について：
<http://www.affrc.maff.go.jp/kokusaikenkyu/byogaichu.html>
(農林水産省 HP)
- (2) 「気候変動の下での持続可能な農業推進に関する検討会」について：
<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kikouhendou/kentoukai.html> (農林水産省 HP)
- (3) G20MACS について（結果概要等を公開）：
<http://www.affrc.maff.go.jp/kokusaikenkyu/macsg20.html>
(農林水産省 HP)
- (4) G20MACS の公式ホームページ（コミュニケ、議題、プレゼンテーション資料等を公開）：
<https://www.macsg20.org/>



図 G20MACS の会合の様子